

(科目名) 環境学Ⅱ			(群)	現代社会適応科目群
(所属部局)			(系)	環境関連科目
環境科学センター	(職名)	(氏名)	(開講期)	後期
エネルギー科学研究科	センター長・教授	酒井伸一	(授業形態)	講義
農学研究科	教授	川那辺洋	(対象回生)	全回生
農学研究科	教授	間藤 徹	(対象学生)	全学生
地球環境学堂	教授	柴田 昌三		
経済研究所	教授	舟川 晋也		
健康科学センター	准教授	大森 恵子		
放射性同位元素総合センター	助教	石見拓		
		角山 雄一		
(授業の概要・目的)				
<p>環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡みあったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決策を打つことは簡単でない。そのような状況で、基礎知識や思考力、それらをベースとした判断や行動が重要になるが、ここでは、様々な視点から、環境問題解決に向けたアプローチや実践例について学び、考える。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>環境問題は、危急の課題として、広く認識されている。特に、本学で学び、将来社会において活躍する学生のみならず、環境問題への対応は、様々な形で、必ず求められるものとなるだろう。</p> <p>しかし、環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡み合ったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決に向けた対策を打つことは、簡単ではない。さらに、様々な情報や視点が存在するため、時に相反する選択肢がある中で主観的・客観的に物事を判断していくことを求められるケースもあるだろう。</p> <p>そのような状況で重要と考えられるのが、地球や自然、人間や社会の成り立ちにまで根ざした知識や思考力、それらをベースに環境問題の実態を把握する能力やセンス、そして過去や他の事例を学びつつ環境問題の解決を目指す思いや力などである。</p> <p>そこで、環境問題について俯瞰的に学ぶ機会となるような講義を行う。環境問題に関する基礎的知識を身につけるため、各論を学ぶにあたっての導入的な位置づけとしてなど、文理問わず、多くの学生のみなさんの環境問題の理解や関心につながる内容を目指す。なお、前期の「環境学Ⅰ」は、環境問題を考える上での基礎的な知識を中心とした内容であり、両方あわせて基礎から実践までをカバーしたものとなる。</p> <p>具体的な講義のテーマ及び内容（環境学Ⅱ）は、次の通りである。なお、環境学Ⅰからの通し番号としている。</p>				
<p>1. 「技術・ハード面」からのアプローチ</p> <p>【1】 エネルギー資源、エネルギー利用（2回・川那辺洋）</p> <p>【2】 資源・廃棄物、有害物質、循環型社会（2回・酒井伸一）</p> <p>【3】 人間健康と環境、人命救助（2回・石見拓）</p> <p>【4】 リスク、放射線と人間・環境（2回・角山雄一）</p> <p>【5】 農業生産と環境（2回・間藤徹）</p> <p>【6】 都市や景観、林業、森里海の連環（1回・柴田昌三）</p>				
<p>2. 「政策・ソフト面」からのアプローチ</p> <p>環境経済と政策（2回・大森恵子）</p>				
<p>3. アジアやアフリカ地域における環境問題</p> <p>アジアやアフリカ地域における一次生産をめぐる環境問題（2回・舟川晋也）</p>				
(成績評価の方法・基準)				
<p>教員ごとに、講義中に、小テストもしくはレポート提出を課す。単位は提出された各テスト結果やレポートの採点を総合して認定される。本年度については4名以上の教員に対する小テストやレポートを、講義中に提出しなければ成績評価の対象とならない。レポートに関する詳細については、それぞれの教員から講義中に指示がある。</p>				
(履修要件) 前期の「環境学Ⅰ」や「環境安全学」との連続した履修を推奨する。				
(教科書)				
(参考書) 講義中に紹介				